



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小島 隆也
東京 都文京区 後楽ビル6階
〒112-0004 林友ビル2906
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

■平成27年度第2回理事会を開催 (東京・木材会館で)

全市連は11月09日(月)、平成27年度第2回理事会を新木場の木材会館で開催した。出席は理事31名・監事計1名の計32名。また、林野庁木材産業課の香月英伸木材製品技術室長及び山田課長補佐、業務課の今井企画官に御出席頂いた。

【会長挨拶】

市川会長は開会挨拶で、「月例経済報告によると、国内経済は一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いているとされ、新設住宅着工戸数は1月〜9月累計で67万7千戸と対前年同期比10.2・8%となり、消費税増税の駆け込み需要の反動から徐々に抜け出しつつある模様。中国等アジア新興国の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクもあり、今回、大筋合意されたTPPの今後の影響など、木材需給等の先行きは、未だ不透明。TPPへの対応策も含め経済対策の充実・強化が強く望まれる。国産材の安定需給体制づくりを進めるため全市連として、並材の広域流通体制づくり、合法木材・木質バイオマス証明、JAS製材品の供給体制づくり、人材養成などに取り組む必要。VWの規制

誤魔化し、マンシヨン傾斜事案等、信頼を裏切る事件が続いているが、木材への国民の信頼に応え続けられるよう御理解・御協力をお願いする。2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック関連施設での木材使用を通じた木材需要増加も期待され、明るさも見えている。政府は、「農林水産業・地域の活力創造プラン」及び「日本再興戦略」等を策定し、地方創生、林業の成長産業化を目標にして、28年度予算要求においても「林業の成長産業化・森林吸収源対策の推進」が盛り込まれ取り組んでいた。等と述べた。

続いて林野庁の木材産業課香月室長は、26年ぶりに木材自給率が30%台に回復したことに触れた後、「①平成28年度林野庁関係予算概算要求の概要について、公共・非公共合計で3,429億円(対前年度比118.1%)と枠一杯の要求で、非公共事業費は、1,198億円(同121.6%)。重点事項は、「林業の生長産業化・森林吸収源対策の推進」で次世代林業基盤づくり交付金が大幅増(27億円→200億円)、林業の低コスト化と花粉症対策(9億円→18億円)、新たな木材需要創出総合プロジェクト(14億円→16億円)及びシカによる

森林被害緊急対策(2億円→5億円)が増加。②TPP大筋合意の概要について、ア、合板・製材は輸入額が多い国や輸入額の伸びが著しい国に対して、16年目までの長期の関税撤廃期間と輸入量が急増した場合に関税をTPP協定発効前の水準に戻すセーフガードを確保。イ、合板・製材の代替・競合品(OSB)は、輸入額の多い国に対し、16年目までの長期の関税撤廃期間とセーフガードを確保。ウ、環境分野では、違法伐採木材に関し、各国における行政措置の強化や各国間の協力に関する規律を規定。」等について、具体例等も示しながら御説明いただいた。

業務課の今井企画官からは、「国産材の安定供給体制の構築に向けた国有林の貢献」について、①国有林の資源と木材供給シエアの状況②林産物の安定供給システム販売の現況・予定量、広域での協定取引の取組、国有林材供給調整対策③安定供給システム販売の仕組みと事例紹介④民有林と連携したシステム販売事例⑤素材生産等委託も生産コスト等の低減不可避で努力が求められている等の御説明をいただいた。

【意見交換】

林野庁の説明等に関連し、意見交換を行った。主な意見としては、「①公共建築物にも木材が使われるようになったが、集成材・大断面のものばかり、高いとの認識、無垢材を使う設計を。②立木販売の公売不落が多い、予定価格積算が高すぎるのではないか。③木材利用拡大等で陳情等に行くが、縦割りで難儀するので連携を。④木質バイオマス本格化し、伐採後の更新放棄も危惧され、電力買取

価格に直結する間伐材等の要件緩和を。⑤県、市町村、県産材等の垣根が高く補助制度等の適用でネック、少し広い範囲で考えられないか。」等が出された。

林野庁から、「①大規模木造建築も、一般流通材を使用し、コスト的に対抗できるものを普及したい。②立木販売物件には、分取造林・分収育林等収益者の意向も加味しなければならぬものもある。③行政における横の連携を更に深めたい。④木質バイオマス発電の電力買取価格は、13円が基本、間伐材等の32円が特例であることを御理解願いたい。⑤国として、国産材は一つであり、県毎を要件としておらず、範囲を限るべきではないと考えている。」等の応答があった。

【情勢報告】

事務局より次の事項について報告し、ご了解を頂いた。

- ①平成28年度概算要求について
②平成28年度税制改正要望について
③TPP交渉について
④木材需給関連資料
⑤国産材輸出動向 27年1月〜8月累計で147億円、丸太は44・3万mに
⑥木材サミット 「木材サミット2015 主要課題」等

【全市連の業務運営】

事務局より、①マイナンバー制度に係る基本方針・取扱規程について、②平成27年度木材アドバイザー養成講習会等(27年度講習会開催予定及び登録有効期限の見直)③広域原木流通体制整備事業について(中部地区、近畿・中国地区及



(理事会の様子)

そのアウトラインとしては、①林業と木質バイオマス、②木質バイオマス発電事業の現状、③未利用バイオマス供給の今後について④まとめ等。

具体的には①燃料のエネルギー含有量、丸太価格、切削チップと破碎チップ、体積と重さ、生産・流通の担い手、人工林間伐の実態、②未利用バイオマス買取価格、稼働施設・認定施設、使用燃料の実態、供給事例③未利用バイオマス燃料需要推計(375万m³、県によっては短期的には需給逼迫)、供給可能性試算(需要は500万m³前後も400万m³程度の供給拡大は可能、事業採算性評価ツール)、燃料供給リスク(価格上昇、認定の制約)、低コスト供給に向けた課題(低質丸太利用オーストリアの事例、林地残材利用、市場の低コスト供給)、欧州型への転換、製材残材利用の拡大④現状(A・B材生産に付随した追加的出材)、集荷窓口による供給事業者の取りまとめ、急増需要に一時的に供給が追いつかない可能性、低コスト供給システムの構築、林業事業体強化・育成(機械化による事故軽減・生産性向上)等について、御講演頂いた。

■全国木材産業振興大会開催

第50回全国木材産業振興大会が10月29日(木)、関係者約900名(主催者発表)が参加して三重県津市総合文化センターで開催された。鈴木和雄全木連東海支部長が歓迎の挨拶をし、黄瀬稔大会実行委員長が「木を見て森を見、街を見る。都市の木造化・木質化により都市を第二の森林に。ウッドファースト社会実現に向

け邁進しよう」と挨拶した。木材需要拡大対策予算確保、東京オリンピック・パラリンピック施設での木材利用推進などの大会宣言を決議した。また、林業協会、全森連、全木連及び林経協の中央4団体が日本の森林・林業の再生に向けた共同行動宣言に調印したことが報告された。

■森山農林大臣新木場視察
〜東京木材市場他〜

平成27年11月12日(木)午前に森山裕農林水産大臣及び今井敏林野庁長官等農林水産省幹部が、新木場を視察し、木材業界幹部と意見交換等を行った。川下の木材産業の実態等を視察し、現場の実態を踏まえた施策展開に資するという趣旨。森山大臣一行は、最初に新木場の木材会館を訪れ、吉条良明全木連会長、島田泰助全木連副会長、市川英治都木連副会長(全市連会長)等と木材業界の現状・



(林場の視察)

課題等について意見交換を行い、引き続き、内外装に国産材を多用した木材会館を内覧した。その後、「市日」の東京木材市場(株)(市川英治社長)に移動し、内装にスギを使用した社屋及び林場に並ぶ製材品を視察された。大臣から、林場に並ぶ製材品についての質問の他、東京木材市場の概要、地元(鹿児島県)の木材市場等が話題となった。早川金光都買連会長に同行して見学に来ていた千葉県の中学生4名と和やかに記念撮影などをされた。最後に、一行は、木材・合板博物館を訪れ、新木場視察を終了した。

■全国優良木材展示会―
東海互市場木材相

六所神社(天然ヒノキ)に農林水産大臣賞

当連盟主催の全国優良木材展示会は11月20日(金)、東海木材相互市場・大口市場(丹羽郡大口町)で開催された。

来賓は、中部森林管理局・桂川裕樹局長、愛知森林管理事務所・千葉副所長及び愛知県農林水産部林務課野田課長ほか。

出品材は、国有林材(木曾ヒノキ材、人工林ヒノキ材等78m³)のほか、民有林材約4,000m³。

開会に当たり、全市連の西垣泰幸連副会長(西垣林業社長)が、「本展示会は、全国の優良木材のPRと需要拡大のため全市連が長年にわたり、関係各位の御協力のもとに開催。今後、全国各地の木材関係者が一体となり、国産材の安定需給体制づくりを進め、林業、木材産業の健全な発展に取り組みが重要、全市連とし

【講演会】

議事終了後、国立研究開発法人森林総合研究所久保山裕史林業システム研究室長に「木質バイオマスの現状と今後の課題」と題してお話し頂いた。

でも、積極的な取り組みを進める。東京オリンピック・パラリンピック関連木造施設の建設や関連の木材需要増加への期待。世界に向けた「木の文化」の情報発信のため取り組んで行く。」旨の挨拶を行った。

桂川中部森林管理局局長は、入賞者に農林水産大臣賞等を贈呈した後、「昔より少なくはなったが、国有林は優良材供給が可能であり、このような優良材を、上手にご活用願いたい」等、挨拶された。

審査結果は、次のとおり(敬称略)。
 ▽農林水産大臣賞 六所神社(天然ヒノキ・350年生 66cm 7m)▽林野庁長官賞 大富部喜彦、吉畑林業▽愛知県知事賞(株)河本材木店、加藤武章▽中部森林管理局長賞 土岐正秋、松野勝久▽全木連会長賞 鈴木康夫、大石俊一▽全市連会長賞 金指勝悟、倉渕順平▽全買連会長賞 柴田昭



(農林大臣賞受賞材)

治、河野成市朗。

式典終了後は、晴天のもと全国から多くの買方が集まり、活発なセリが行われた。国有林材は、桂川局長ら関係者が見守る中で、最高値の木曾ヒノキ材には150万円(1立方m当たり)の高値がついた。また、国有林の高齢級ヒノキ人工林材(㊦)や、コウヤマキ材にも注目が集まり、高値が付いた。

■第43回JAS展―肥後木材(株)

第43回JAS製材品普及展示会が今年度の最後を飾り、11月11日(水)に肥後木材(株)で開催された。前日の10日には、審査員により11社の出品製材品(合計98m)を厳正に審査し、90点以上2社という評価を得た。審査過程において格付実績及び出荷実績での減点が目立った。

当日の展示会には、多くの買方が参加し、優良国産材製材品を中心に活発な商況を呈した。

■秋の叙勲等

・平成27年度秋の叙勲において、木材流通業振興功勞により、磯貝英一氏(元全市連副会長)が旭日双光章を、簀廣廣氏(全銘連会長・全市連理事)が旭日小綬章を受章した。御受章おめでとうございます。

磯貝英一氏は、平成8年から6年間全市連副会長を務められたほか、東京都木連副会長等を歴任され、CAD/CAMプレカットシステムの導入による市場材木店と大工・工務店が連携して取り組

む住宅建築システムの確立、代金集金業務の自動振替化、消費者を対象とするイベントの開催等を通じ、東京木材相互市場を全国有数の市場会社に育てあげられた。

簀廣廣氏は、理事長を勤められた岐阜銘木協同組合に全国から銘木を幅広く集荷し、全国トップクラスの銘木市場に育て上げられたばかりでなく、全国銘木連合会会長を長年務められ、銘木業界の活性化と振興に努められた。

■27年度主要木材の需給見通し

林野庁は、平成27年9月18日、「主要木材の需給見通し(平成27年第4四半期及び平成28年第1四半期)」を公表した。木材需給会議の意見等の概要は以下の通り。

1. 経済情勢
 - ・実質GDP成長率は、平成26年度は公共投資、輸出等がプラスに寄与したが、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動による個人消費等の冷え込みが大きく影響し、△0.9%(実績)の成長となった。平成27年度は消費税率引き上げの影響も薄らぎ、基本的には緩やかな持ち直しが続く予想され、0.9%の成長が見込まれる。
2. 住宅着工
 - ・平成26年度の新設住宅着工戸数は、全体で約880千戸前年同期比89.2%、持家が約278千戸同78.9%、貸家が約358千戸同96.9%、分譲一戸建が約124千戸同92.8%、分譲マンションが約110千戸同89.0%であった。

・平成27年7月の新設住宅着工戸数は、約7万8千戸で前年同月比107.4%と5ヶ月連続の増加。
 ・平成27年度新設住宅着工戸数は、対前年比106.8%の94万戸と想定。

・平成28年度新設住宅着工戸数は、対前年比102.0%の95万9千戸と想定。

3. 木材輸出動向
 ・平成27年の1月～7月の木材輸出額は、約127億7千万円(対前年同期比129.8%)。高い伸びを持続。

・品目別には、丸太約54億円(対前年比142%)、製材品約21億2千万円(同113%)、合板約15億4千万円(同129%)等。

・国別には、中国約47億円(対前年同期比124%)、韓国約24億3千万円(同166%)、約フィリピン17億2千万円(同169%)、台湾約12億6千万円(同117%)等。

4. 主要木材需給動向

(1) 国産材(需要(工場入荷))

①製材用丸太・新設住宅着工数が現在の水準で推移すると想定、平成27年第4四半期、平成28年第1四半期とも国産材回帰の流れを受け堅調に推移する見通し。

②合板用丸太・型枠用合板等新規用途での需要拡大も見込まれるが、平成27年第4四半期、平成28年第1四半期とも、新設住宅着工がわずかながら回復と予測、主力の構造用合板の需給環境が緩慢ながら増加に転じると見込まれるが、平成27年第4四半期及び平成28年第1四半期とも前年同期比で減少の見通し。

(2) 米材

①丸太

・需要は、平成27年第4四半期、平成28年第1四半期とも、消費税の駆け込み需要の反動も落ち着き堅調に推移の見通。
 ・供給は、為替、国内需要の動向や産地の状況も踏まえ、平成27年第4四半期は前年同期とほぼ同量、28年第1四半期は前年同期より増加の見通。

②製材品
 ・需要は、平成27年第4四半期は住宅着工が増加に転じ、平成28年第1四半期も住宅着工等市況が堅調に推移されると予測。両四半期とも前年同期比で若干増加した水準で推移すると思われる。
 ・供給は、平成27年第4四半期は現地価格の変動もあるも、前年同期比で減少する見通。平成28年第1四半期は稼働日数の減少もあるも、在庫が低水準で推移し、昨年よりやや増加した供給を予測。

(3) 欧州材(製材品)
 ・国内需要動向や為替動向を反映して低調な水準で推移するも、平成27年第4四半期及び平成28年第1四半期は前年同期に比べて増加の見通。

(4) 南洋材
 ①丸太
 ・需要は、平成27年第4四半期以降も底堅く推移。平成27年第4四半期及び、平成28年第1四半期とも前年同期比でやや減少の見通。
 ・供給は、現地での伐採環境や為替状況により低調な水準で推移。平成27年第4四半期及び平成28年第1四半期は前年同期比で増加の見通。

②製材品
 ・需要は、平成27年第4四半期以降は、対他樹種の製品に転換する動きがあり、対

前年同期比で減少の見通。
 ・供給は、産地の伐採状況等により集材、製材が苦戦する模様も、国内需要に対応するべく供給される見通。

(5) 北洋材
 ①丸太
 ・需要は、低調ながら合板用丸太の他樹種からの転換等も見込まれ、平成27年第4四半期、平成28年第1四半期とも前年同期比で増加の見通。
 ・供給については、需要に応じた輸入との見通。

②製材品・供給は、国内需要に応じた輸入との見通。

(6) ニュージールランド・チリ材
 ①丸太
 ・需要は、輸出梱包需要が想定より弱含みで推移、平成27年度第4四半期はやや増加も、平成28年第1四半期は前年同期比でやや減少の見通。
 ・供給は国内需要に応じた入荷の見通。

②製材品
 ・需要は、梱包材の樹種転換も見込まれ平成27年第3四半期、第4四半期とも前年同期比で減少、平成28年第1四半期は前年並みの見通。
 ・供給は、国内需要や為替環境を見極めながら、慎重な供給が行われる見通。

(7) 合板
 ①国内製造
 ・需要は、平成27年第4四半期以降は住宅エコポイントやフラット35の優遇金利政策の実行等による住宅需要の持ち直し、輸入合板からの暫時移行等により前年同期に比べやや増加の見通。

主要木材の入荷量等の概要

(単位：千m³、%) (括弧内は前年比又は前年同期比)

	国産材丸太		輸入丸太	輸入製材品	合板	構造用集成材
	製材用	合板用				
26年計(実績)	12,211(101)	3,191(106)	4,086(91)	6,430(84)	6,297(97)	2,137(95)
27年第1四半期実績	2,989(96)	819(110)	824(67)	1,454(88)	1,484(90)	468(83)
27年第2四半期実績	2,956(95)	844(97)	878(79)	1,599(89)	1,375(82)	508(90)
27年第3四半期見込み	3,000(106)	710(94)	815(95)	1,538(97)	1,360(92)	535(107)
27年第4四半期見通し	3,100(99)	720(88)	905(102)	1,547(111)	1,420(95)	525(104)
27年計(見通し)	12,045(99)	3,093(97)	3,422(84)	6,138(96)	5,640(90)	2,036(95)
28年第1四半期見通し	3,000(100)	720(88)	950(115)	1,537(106)	1,440(97)	505(108)

・供給は、国内工場が新たに稼働するが、需要に応じた生産となる見込。

②輸入
 ・需要は、平成27年第4四半期以降はマシオン等の需要が出てくる見通も、産地状況が不透明なため前年同期比で減少の見通。
 ・供給は、産地状況の見通が不透明なため、平成27年第4四半期以降も前年同期比で減少の見通。

(8) 構造用集成材
 ①国内製造
 ・平成27年第4四半期、平成28年第1四半期は住宅エコポイントやフラット35の優遇金利政策の実行等により新設住宅着工が増加し、前年同期比やや増の見通。

②輸入
 ・平成27年第4四半期以降は欧州大手

メーカーからの供給が本格すると想定され、前年同期と比べ増加の見通。

■平成27年度木材アドバイザ
 ー養成講習会開催のご案内
 木材を取り扱う方々を対象に環境問題や木材需給、日本の林業のほか、木の見分け方や基本的性質、木造建築に関する実践的な知識を学んで頂くため、下記により木材アドバイザー養成講習会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。(東京・大阪の各会場で定員40名程度を予定。)

日程等は、
 ①(東京会場)平成28年2月19日(金) 9:30~17:20、2月20日(土) 9:00~16:20 (於) 木材・合板博物館1F会議室(東京都江東区新木場1丁目7番22号新木場タワー)
 ②(大阪会場)平成28年2月26日(金) 9:30~17:20、2月27日(土) 9:00~16:20 (於) 大阪木材仲買会館会議室(大阪府大阪市西区新町3丁目6-9)
 受講料は、22,000円(ただし、受講料、テキスト代、受験料等を含みます)
 (申し込み・問合先)(一社)全日本木材市場連盟 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6階 TEL 03-3818-1829 FAX 03-3818-2907

■全市連HPに「会員掲示板」
 この度、全市連のホームページに「会員掲示板」を設けました。行政等からの通知・連絡等を掲載致しますので、ご覧ください。